

資料 7-2

令和4年(2022年)6月29日(水)
第7回市民参加推進審議会

第6回八王子市市民参加推進審議会まとめ

【第6回での配布資料】

- 資料6-1：第5回八王子市市民参加推進審議会（第7期）会議録
- 資料6-2：第5回八王子市市民参加推進審議会まとめ
- 資料6-3：令和2年度（2020年度）市民参加実施事業実態調査まとめ
- 資料6-4：市民参加実施事業並びに条例第6条該当事業に関する実態調査まとめ

【市民参加条例の運用状況の検証】

《事務局説明》

- ・「市民参加条例の運用状況の検証」の審議にあたり以下の内容を説明
 - 1 八王子市市民参加条例、
 - 2 八王子市パブリックコメント手続ガイドライン、
 - 3 八王子市の広報やホームページでのパブリックコメント手続の周知例
 - 4 令和2年度市民参加実施事業実態調査まとめ

《審議内容》

[実態調査]

- ・市民参加実態調査の内容は条例に基づき実施したものであり実務的な印象ではあるが、市は、条例やガイドラインに沿ってしっかり取り組んでいた。
- ・計画をつくる際のアセスメントや、ニーズをとらえることは行政の大事な仕事のひとつだが、そこがどういう手法だったのかがわかりづらい。

[調査事項の集計方法]

- ・Google Forms等のフォーマットでは、パブリックコメントのような定型的な選択肢での回答ではない自由記述を自動集計することは難しいが、選択肢形式のアンケート調査の場合には手作業で集計を行う必要がなく便利である。
- ・上記のフォームでは、「ポジティブ」「ネガティブ」「中間」のどれにあたるかの選択肢を設けた上で、コメント記載をしてもらうことで分類別集計であればできる。
- ・今後、LINEを活用した催事の周知、その内容の動画での視聴、Google Formsでのアンケート調査などが連動して一連でできるとよい。
- ・Google Forms等のツールを活用することで回答しやすくなり、集計も容易になる。一方で、個人情報扱うこともあるので、行政として確保すべきセキュリティについては考慮する必要がある。

[興味を持ってもらう工夫]

- ・パブリックコメント手続では、素案が分厚くなるとすべてを読むことが大変であるから、概要版に素案のどこのページの内容であるか記載し索引的に利用できるように工夫することで、素案の興味ある項目へ誘導することができる。情報は簡潔・明瞭に迅速に伝え、興味ある部分に容易に辿り着けるようにして、具体的な情報をじっくり検討できることが大切である。
- ・パブリックコメント手続は、市民の目に触れるような周知方法が重要である。地域ごとに概要を説明したり、一歩進んで、YouTube等でいつでも好きな時間に視聴できる仕組みがあると、目で見ても、耳で聞いて、内容が理解できて、イメージしやすくなる。
- ・パブリックコメントを提出する人は、熱意がある人である。興味があっても、素案を読んだり、わざわざ調べたりしてパブリックコメントを書くことはハードルが高い。広くパブリックコメントの意見を募集するのであれば、誰でも書いてよいというところをもっと前面に打ち出すことが必要であるとともに、専門用語が多く調べるのに時間がかかってしまうので、用語解説はセットであるとよい。

[市民参加方法実施にあたってのスキル]

- ・市民参加の方法を実施するには職員の技量が重要になる。全職員が平均的に身に付けていないのであれば、やり方に差が生じてしまう。実施方法に長けている所管の技法の共有やコーディネートスキルを向上させることが必要である。

[忘れてはいけないこと]

- ・世の中では、内容を単純化してわかりやすく伝えたり、一瞬で理解したいということが普及している。深く考えることをしなくなると市や市民にとってプラスにはならない。市民参加への入口としての敷居は低くする必要はあるが、わからなかったら自分で調べて、関心を持ってもらい、市民にとって広い意味での自覚につながる大切。
- ・情報には「早い情報と遅い情報」がある。現代はITが進化し、容易に検索し表面的な内容であればすぐに調べることができる。しかし、それだけでは真に理解することはできない。